

特別展

# 文房四宝

清閑なる  
時を求めて

Special Exhibition

*Four Treasures of the Study*

*The Essentials for the Chinese Literati Culture*

2019年

4月6日(土) — 6月30日(日)

mOc  
OSAKA

大阪市立東洋陶磁美術館  
The Museum of Oriental Ceramics, Osaka



特別展

# 文房四宝

清閑なる時を求めて

中国において文人とは武人に対する名称であり、知性をもって政治を行う教養と仁徳を兼ね備えた、皇帝も含めた高級官僚を指しました。

文人は、書・文学・音楽・芸術のみならず、治山治水にも秀でていなくてはなりません。これら多岐にわたる知識体験を得るため「万巻の書を読み、万里の路を旅する」ことが必要とされました。

文房は、唐時代に読書の部屋、書齋を指すようになり、これら文人の修練の場でもあったのです。この文房に備えられた大切な道具として挙げられるのが、筆・墨・硯・紙の「文房四宝」です。

そのほかにも文房具には、印材・筆架・筆筒・水滴・玉製品など様々な道具があり、

これらは文房の主人の知性の高さを示し、研ぎ澄まされた美意識によって、選り抜かれたものでした。

文房とは文人たちの日々の修練の場でありましたが、煩雑な政治の世界から離れ、

一人心静まる安らぎの場でもあり、そこには先人たちによって作り上げられた、

俗界から離れた清閑なる時が流れていました。

そのひと時を求めて、文人たちは座右に選り抜いた文房具を集めたのです。

これらの品々は、現代の私たちをも清閑なる時へと誘うものといえましょう。

今回は、日本有数の文房具コレクションを中心に、中国の文人を魅了し続けた文房四宝の世界を、中国の明時代から清時代の文房具約150点をもって紹介します。



Special Exhibition

## Four Treasures of the Study

The Essentials for the Chinese Literati Culture



1 堆朱人物文筆 明時代中期 2 黄地金彩雲龍紋紙(部分) 明時代中期 3 竹節硯端溪 清時代初期 4 梅花凍獅子鈕格円印 清時代中期 5 鶏血平頂四方印 明時代後期 6 魚符墨 方子魯製 明時代末期

休館日 = 月曜日(4月29日、5月6日は開館)、5月7日(火)

開館時間 = 午前9時30分~午後5時(入館は閉館の30分前まで)

観覧料 = 一般1,200(1,000)円、高校生・大学生700(600)円

※( )内は20名以上の団体料金 ※中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)、大阪市内在住の65歳以上の方は無料(証明書等提示)

主催 = 大阪市立東洋陶磁美術館、NHKプラネット近畿、毎日新聞社

【同時開催】特集展 = 朝鮮時代の水滴 平常展 = 安宅コレクション中国陶磁、安宅コレクション・李秉昌コレクション韓国陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺

問い合わせ = 大阪市立東洋陶磁美術館 大阪市北区中之島1-1-26 (大阪市中央公会堂東側)

京阪中之島線「なにわ橋」駅下車すぐ / Osaka Metro御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」、Osaka Metro堺筋線・京阪本線「北浜」各駅から約400m

電話 06-6223-0055

ホームページ <http://www.moco.or.jp> ※詳細は当館ホームページでご確認ください。

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka  
大阪市立東洋陶磁美術館

